

く え い っ し ょ 倶会一処

親鸞聖人が生きておられたのは、NHK 大河ドラマの『鎌倉殿の13人』の時代でした。ドラマは、三谷幸喜さんのシナリオで面白く見られましたが、中身は源氏と平家の戦いに始まり、鎌倉の主導権をめぐるすさまじい殺し合い、刀と弓で全て決着をつけていく時代でした。

その時代を反映してか、親鸞聖人が現在の茨城県に住んでおられたころ、親鸞聖人の教えを人々が聞いて心惹かれていく様子を見て、自分の立場が危うくなると考えた山伏明法坊が、親鸞聖人の命を折々狙った事件がありました。それが縁となって明法坊は、親鸞聖人の話しを聞く人になります。

親鸞聖人は、その明法坊が亡くなられた後の手紙で、明法坊について「かつてあった自身の悪しき心を思い返して、同じく教えをいただく友人やなかまに、心をこめて懇切に接して下さった」と書いておられます。自分を殺そうとした人が、一緒に教えを聞く友となってくれたことは、聖人にとって生涯の中での大きな喜びであったのです。

それは、親鸞聖人の人徳がすばらしいということではないのです。自分の意にそぐわない者に恨みを懐き、それがだんだん積もれば、相手を殺してでも自分の都合を押し通そうとする心根は明法坊だけでなく私にも在る。

だからこそ、私たちの中にある罪業性を余すことなく知らせ、共に目覚めよと呼びかける本願の教えと一緒に聞いて確かめていく人に明法坊がなってくれた。そのことが聖人の喜びなのです。

答えを無理に一緒にするものではありません。果てることのない争いの歴史の底から、それを悲しんで問いかける教えがあることを知って通じ合う、そこで私たちは出会うことができるのです。浄土の教えにその出会いを願うことが、「俱ともにいっしょで会う」とお経に表されています。

岐阜高山教区不遠寺住職 四衢 亮

このお花は御廟にお供えいただいた仏花を再荘厳したものです

お問い合わせ: 大谷祖廟事務所 京都市東山区円山町477 TEL 075-561-0777